

認知症作業療法 活動報告（概要）

北海道作業療法士会では、平成**28**年度より認知症施策推進委員会（委員**4**名）を立ち上げ、これまで**3**年の経過の中で、①人材育成（研修）事業、②調査事業、③普及・啓発事業を主な事業として取り組みながら、作業療法士が地域で活用されるような活動を進めている。今年度は、これまでの事業を継続しながら、更に家族会との連携をすすめる取り組みを開始した。

人材育成事業

昨年度に引き続き道学会にて「ユマニチュードやパーソンセンタードケアを通じて認知症の作業療法を再考する」をテーマとしたワークショップを企画、実施した。

また重点課題研修は昨年度の身障領域に引き続き、「精神領域での認知症の人への支援」をテーマに企画、実施した。テーマに沿って、精神領域の**OT**の参加者が多くみられた。

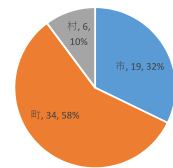


今年度の重点課題研修
—精神科領域—（札幌）

調査事業

昨年度は一昨年度と同様の内容で、道内の作業療法士の認知症施策への関与についてアンケート調査を実施した（**59/179**市町村、回収率**33%**）。各市町村での施策は徐々に進んでいる一方、作業療法士の関与はまだ少数であった。今年度は、これを踏まえた二次調査として、作業療法士が関与している実情を掘り下げて調査を進める予定である。

回答市町村数（市町村別） n=59



アンケート結果（回答市町村の割合）

普及・啓発事業

会員向けに道学会ニュースの中に委員会枠でのシリーズ記事を掲載した。一般向けとしては、認知症リーフレット作成への協力を継続した。また今年度より新規に家族会との連携をすすめる取り組みを開始し、「**RUN**伴」への参加も検討した。今後、訪問リハビリ従事者を対象とした研修会を通じて、作業療法士の視点や関わりを紹介する予定である。



認知症 施策推進委員会より

「当院での認知症カフェの実践」第 49 回ワークショップ報告

2018年9月号の道学会ニュース（抜粋）

OT協会との連携事業

今年度の認知症アップデート研修は、昨年度と同様に**10-11**月の期間で**2**回、会員数が多い道央圏（札幌市）と地方開催（旭川市）での実施を予定。今年度は新たに「認知症サポーター養成講座」の同時開催も予定している。



昨年度の認知症UD研修（帯広市）

今後の展開

人材育成（アドバイザー養成、教育システムの再構築、**GP**事例の共有など）、
一般、他職種向けの作業療法士の機能と役割の情報発信、連携強化
地域の高齢者支援（認知機能低下予防、総合事業）、大学との連携推進 など